

# 瓦版

## 海のハンター展 特別号

### 日本初公開 液浸標本 30センチメートルのホホジロザメ



佐藤さんと300kgオスのホホジロザメ



さまざまなサメが大集合

現在、世界最強の日本で初のホホジロザメを持つ。効率よく、肉食魚類、ホホジロザメ成魚の全身液浸かつ速く泳ぐための構造で噛む力が一・八トタ。これを企画した、尾鰭の付根には、と第一位を誇る彼沖繩美ら島財団の佐も観察できる。この役らの歯の縁は、ノコ藤圭一さんによれ割は充分には解明されギリ状で獲物を切りば「ホホジロザメのていがない。多くの労力と時間する。今回は国立科も顎と歯である」とアイデアを重ねて製作学博物館「海のハンター展」語る。しかし歯の見られたホホジロザメ成ター展」最大の見どせ方に苦心したそう魚の全身液浸標本。しころである、このホだ。目が反転してしかしホホジロザメの研究ホジロザメの驚くべまう全開の口ではな究はまだ謎は多い。こき能力を報告する。く、あえて半開きの標本から新たなことが国立科学博物館は口を再現したのだ。が発見されるだろう。

また彼らは、珍しい特徴である三日月形の尾鰭を持つ。効率よく、肉食魚類、ホホジロザメ成魚の全身液浸かつ速く泳ぐための構造で噛む力が一・八トタ。これを企画した、尾鰭の付根には、と第一位を誇る彼沖繩美ら島財団の佐も観察できる。この役らの歯の縁は、ノコ藤圭一さんによれ割は充分には解明されギリ状で獲物を切りば「ホホジロザメのていがない。多くの労力と時間する。今回は国立科も顎と歯である」とアイデアを重ねて製作学博物館「海のハンター展」語る。しかし歯の見られたホホジロザメ成ター展」最大の見どせ方に苦心したそう魚の全身液浸標本。しころである、このホだ。目が反転してしかしホホジロザメの研究ホジロザメの驚くべまう全開の口ではな究はまだ謎は多い。こき能力を報告する。く、あえて半開きの標本から新たなことが国立科学博物館は口を再現したのだ。が発見されるだろう。

### 海の食物連鎖 喰うか喰われるか

### チャンスは一〇月二日まで 海のハンター展



機能は押える、刺す、切る、潰すがある

今回の注目はそれぞれの捕食方法。エネルギーの奪い合いともいえる彼らの捕食は、鋭い歯を使うものもあれば、自らが持つ毒を相手に刺すものもある。また食べられないためには貴重な機会だろう。



七月七日、国立科学博物館「海のハンター展」の開会式は、多くの関係者が集まる中開催された。主催者を始めとする方々からの挨拶。監修者の紹介、テープカットが行われた。国立科学博物館の林良博館長(写真左から2番目)は「海洋のハンター展では捕

食について注目し、特に顎と歯の進化にスポットを当てた」と報道陣に語った。生命を繋ぐための捕食やそのための進化を遂げてきた生命の神秘について深く知ることができる「海のハンター展」。一度訪れれば、生命に関する考え方や価値観が変わるかもしれない。

レイアウトデザイン 阿部

編集 編集部一同

食物連鎖と弱肉強食の世界  
極寒の地で生きる潜り屋



仲良し  
マカロニペンギン



アザラシを説明する  
田島さん

飛べない鳥のペンギンは水中で普通五〜一〇分潜る。ペンギンの背中にデータロガーをつけて研究を行った際、オウサマペンギンは最大で三四メートルも潜ることが最近分かった。鳥類を監視した濱尾章二さんによれば、かつてのペンギンは空を飛ぶことができたらしいが、水中のえさを捕るために空を飛ぶための筋肉の代わりに、水の中を泳ぐための筋肉を成長過程の中で発達させたそうだ。

さらに、鳥のほとんどが平たく飛びやすい羽毛であるのに対し、ペンギンはフサフサで保温をするためだけの羽毛だという。また、羽毛の量だけでなく皮下脂肪も多いため断熱性が高い。それはペンギンたちが極寒の地でも生きていけるように進化したからである。濱尾さんは語る。

南極に生息する動物は他にも哺乳類のアザラシやアシカ、セイウチなどがある。「セイウチ

は耳介がない点ではアザラシ科に似ているが、身体の形はアシカ科に似ている。耳介とは外側に突出した部分で音をより集約させる役目があるが、耳介がなくても音は聞こえる」と哺乳類を監視した田島綿子さんは語る。ヒョウアザラシ

などはペンギンを襲うことがあったり、アザラシ科で最大の大きさを誇るミニゾウアザラシは水中で二〇分もとどまることができたり、種類によって特徴も様々だ。また、彼らは大きい体ほど熱が逃げにくいことを利用して保温を行って行っている。水よりも軽い脂肪が発達した筋肉が動物たちが海で泳ぐことを助けている。

古代の巨大ハンター  
メガロドンに迫る



大迫力の模型

総監修の篠原現さんが、千数百万年前、推定全長一五から一七メートル程の巨大なサメ、メガロドン

隠れた新発見  
ユニークな化石に注目



「歴史的な相討ち」と紹介されている魚類

国立科学博物館で行われている「海のハンター展」では、首長竜の化石が展示されている。そのために、抵抗をお勧めしたい。

が地球上にいたそうだ。会場では顎の復元模型と全長二、五メートルの全体模型と出会う。メガロドンは主に、歯しか残っていない。しかし、その歯の鋭さから肉食だったと考えられる。歯の縁は、ノコギリのよう

**神奈川県立大船高校**  
**新聞委員会**  
<http://www.ofuna-h.pen-kanagawa.ed.jp/school-life/arts-club.html#newspaper>

編集 編集部一同

レイアウトデザイン 青山